

88-89

冬山合宿

(7人冬+個人山行)

報告書



入山したのは12月
下山したのは1月
でも今は平気なわ

信州大学山岳会

牧野
牧野
牧野

牧野
牧野

牧野
牧野

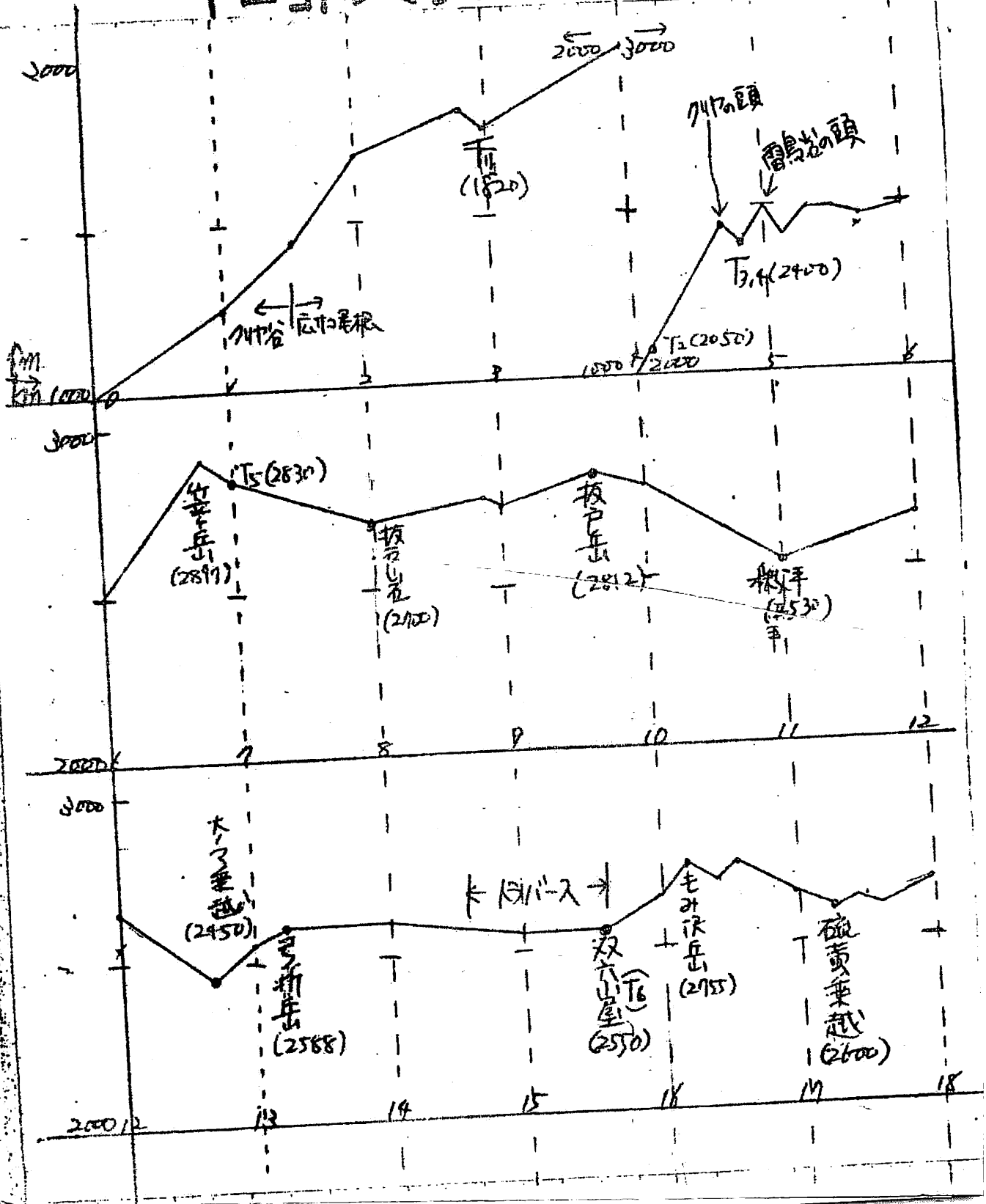
行程表

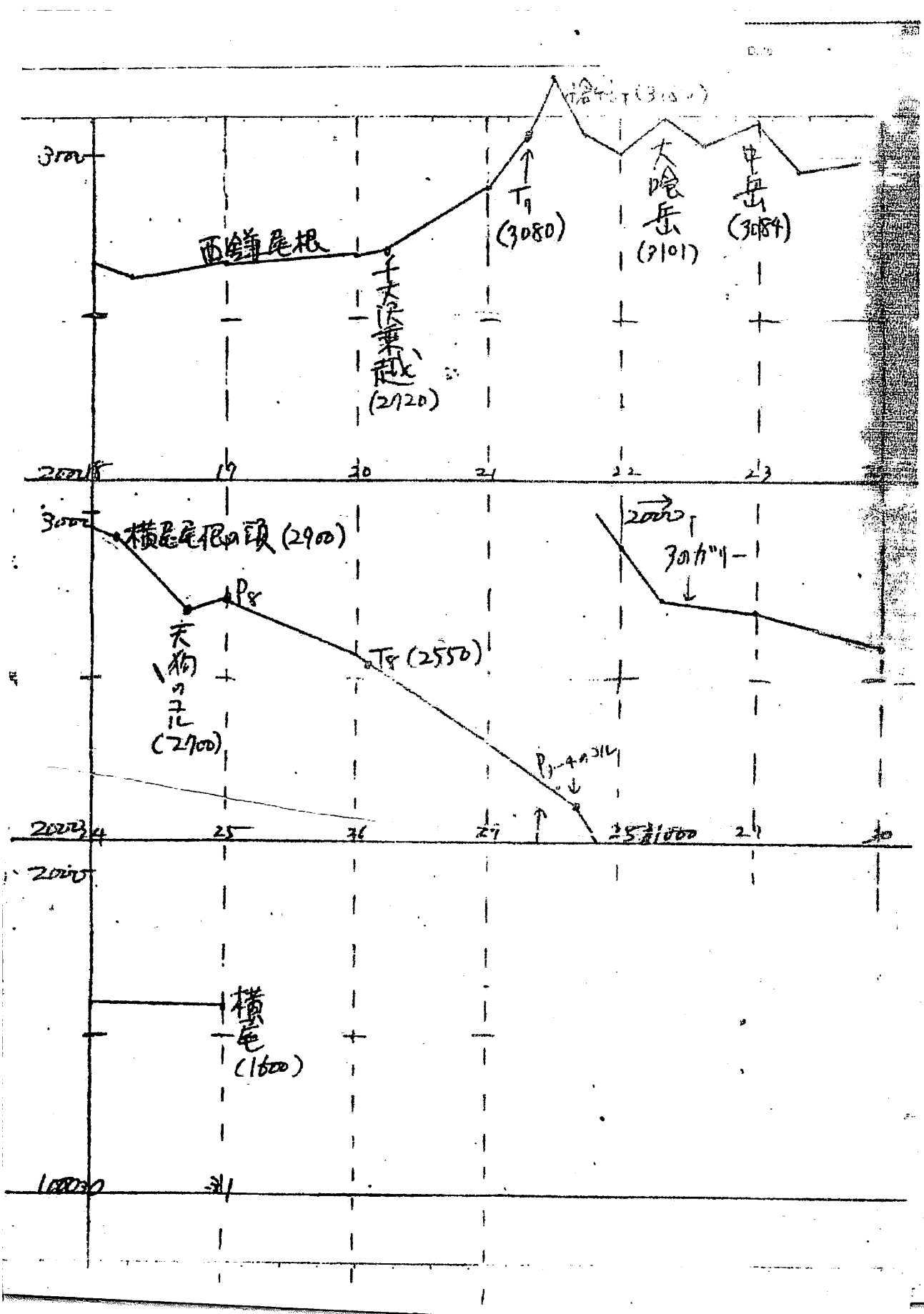
	松本	高山	榎見	1130m T.S	1900m 千本	2060m T.S	2250m 千本	2300m 千本	7470m T.S	2430m 千本	箕ヶ岳	笠の小屋 T.S
12/24	→											
12/25		→										
12/26			先 後	→	→	→	→					
12/27					先 後	→	→	→	→			
12/28								Fix	→	→		
12/29								Fix 本	→	→	→	

	箕ヶ岳	紋公平	大ノ子	双六 小屋TS	王太 TS	扇小屋 T.S	榎 山頂	天狗 の 山	榎見根 P6 T.S	3の 入口	横上 尾 T.S	沢渡
1/30	→											
1/31		Fix 本		→	→							
1/2					本 Fix	→	→					
1/3								Fix 本	→	→		
1/4											→	
1/5												

1/5は吹雪のため停滞

高度表





12/24.

- ① 14:30 中尾口バス停
- ② 14:50 権見 (T.S)

・権見には明治大学がテント5張りしていた。

12/25.

- ③ 8:45 T.S 麓
- ④→⑤ 11:20 1630mのエール
- ⑥ 14:15 1730mのエール (T.S)

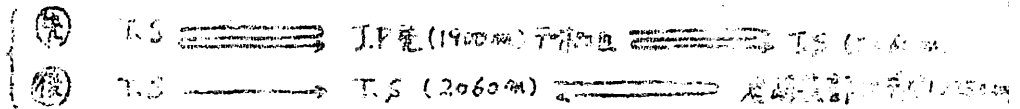
・シングルホックで一気に上げる。途中迄 明大のトレーヌに助けられる。

12/26.

先登隊：山本田, 中村, 下平, 牧野, 山田, 植垣, 長谷川, 小野

後登隊：山本田, 内田, 清山, 小久保, 加藤, 兼岩, 三町

Fix Pack：山本田, 三町 (T.S 決定後 クリヤ下岩峰へ張りに行く)



先登隊

- ① 6:05 T.S 麓 (1730m)
- ② 7:00 東北支線とのJP (1840m)
- ③ 7:35 下平の地 (1900m)
- ④ 8:40 T.S (1730m)
- ⑤ 11:40 T.S (2060m)
- ⑥ 13:00 パック下平 (1900m) 回収へ
- ⑦ 14:00 T.S (2060m)

後登隊

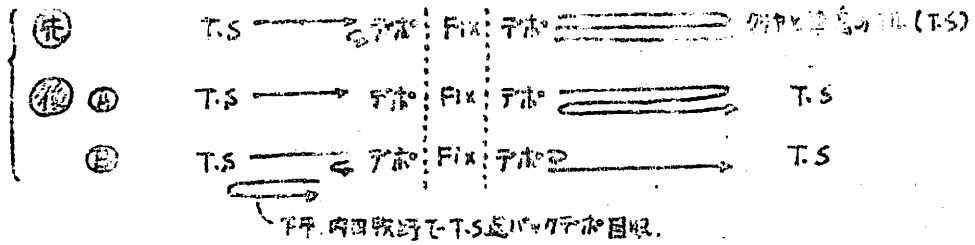
- 8:15 T.S 麓 (1730m)
- 9:30 下平の地 (1900m)
- 11:00 岩峰下へ下平 (2250m)
- 12:15 T.S (2060m)

・Fix 隊

13:00 麓 → 15:00 (2060m T.S に登陸)

・クリヤの頭下にある岩峰 (2250m) に クレタ 35m IP

- 先発隊 L 中村, 瑞山, 小久保, 河西, 加藤
 後発隊 (1) L 豊田, 内田, 牧野, 小野, 山田, 長谷川
 (2) L 龍田, 下平, 森岩, 植垣



- (先) ① 6:30 T.S. 発
 ② 10:00 747 の頂
 ③ 10:20 747 と雷島の T.S.
 ④ 12:00 Fix 下 (2250m) 下平が
 ⑤ 12:30 747 の T.S.

- (後A) 7:30 T.S. 発
 7:50 Fix 下
 9:00 通過開始
 10:00 Fix 上 下平が
 11:00 最初の T.S. (2060m)
 13:00 747 の T.S.

- (後B) 7:30 T.S. 発
 7:50 Fix 下
 9:00 通過開始
 10:00 Fix 上 下平が
 10:30 Fix 下 下平が
 11:50 747 の T.S.

T.S. 決定後 後発隊を出了

L: 豊田, 下平, 内田, 牧野, 小野, 長谷川, 森岩.

- ⑥ 13:40 T.S. 発
 ⑦ 14:30 雷島 1 峰
 ⑧ 15:40 T.S. 着

• 明治大, 金沢大, そして我々の 3 PARTY が一気に Fix に乗ったため, Fix 通過に非常に時間を要した。747 の頂直下に明治大の Fix が 50m 有, 利用する。



No.

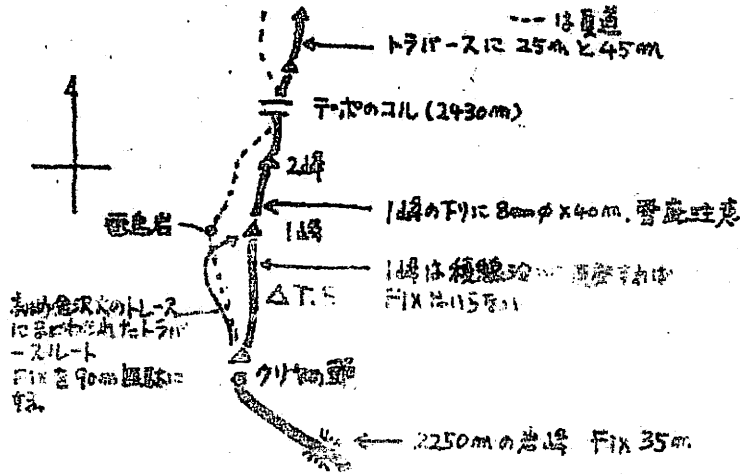
Date

12/28 ・悪天候のため2年生以上でFix工作と示添上をする。(降雪、風やや強し)

Fix 隊 A: 壺田, 小久保, B: 下平, 三平山

1次示添隊 飛田, 中村, 内田, 牧野

2次示添隊 壺田, 飛田, 中村, 内田, 下平, 小久保, 牧野



クワの頭からは稜線沿いに上った方がよい。雪が無ければ真道沿いにトランスして行けるが避けた方が無難である。最後の2フックを越せば後は基点Fixは115m。



Theme

No.

Date

()

12/29. Fix隊 L: 下平, 三神山 (テホ地のコルより先に張りコルへ戻り本隊と合流)
本隊 残り

- ④ ○ 7:40 T.S 発
- 9:30 テホのコル
- 10:10 全員で荷分け後出発 (お持ち物はシングルホック)
- ④ 13:30 雙ヶ岳山頂 (風や雨有)
- ④ 14:00 雙の小屋 (T.S)

⑤ 6:35 T.S 発 → 7:15 テホのコル → 7:45~9:00 Fix 工作
(コルの先にある2つのピークのトラバースに25mと45mの2P)

・築造トレス有, ツボ足で歩きのラッセルとする程度. 雙の冬季小屋は小さく(10人程度)利用出来ず. 天気が悪くてメテオシメテシ

12/30 全員で行動

- 7:15 T.S 発
- 10:00 釜父甲
- ④ 11:30 大に衆越 (双大の手前はトラバースをして谷間を詰める.)
- ④ 14:30 双大小屋 (雪崩の危険有)

・1日アイゼンの良く効く行程だった. 双大の小屋は今年も我々を歓迎してくれた. 明日天気良かった.

12/31. Fix隊 L: 飛田, 牧野 (西鏡尾根と櫓の嶺先迄)
本隊 残り全部

- ④ ○ 7:15 T.S 発
- 8:35 硫黄の頭
- ④ 13:30 干丈沢衆越
- ④ 15:00 扇の小屋 (T.S) <山田がお疲れ, 豊田がサポート>

⑤ 6:40 T.S 発 → 12:45 干丈沢衆越 → 12:50 扇 → 15:30 櫓 → 16:10 T.S
Fix (硫黄の頭の下(岩) 12m, 干丈沢衆越手前のトラバース 50m+40m)
櫓の登り 9mmφ x 40 + 8mmφ x 40 + 6mmφ x 10m

・西鏡は雪面のトラバースや岩峰越えが所々に有り, Fix を張りたした5本が有り.
今日またまた天気良かった.

1/1. 猛吹雪により沈殿 (7>トを崩壊しかける).

1/2. Fix 隊 L: 中村, 三階山 (積雪後, 中倉, 横尾尾根にFix工作).
本隊 残り全部

- ⊙ 6:50 カラ身でT.S登
- ⊙ 7:40 裾 頂上
- ⊙ $\frac{9:00}{10:00}$ T.S. 徹夜後出発
- ⊙ 11:30 中倉
- ⊙ 12:00 横尾尾根との分岐
- ⊙ 14:15 天狗のコル
- ⊙ 18:20 T.S (横尾尾根 P6 付近)

⊕ 9:30 T.S 登 → 10:15 中倉 → 11:20 尾根の分岐 → 14:15 天狗のコル
(本隊は尾根上を今より積雪を乗り越す) → 19:20 T.S

- Fix
- ・ 中倉直下に 8mm のスロープ (支金は11-11)
 - ・ 横尾尾根 天狗のコル点, 出たレールパイプ 45m (支金はスロープ)
 - ・ コルの手前 下り 10m, トライプ 40m (支金は木)
 - ・ 横尾の歯 (P7, P6 付近), (30m + 10m) + 40m, + 30m + 10m + 40m = 160m

横尾尾根に来て、Fix具の絶対的不足を感じる。11-11の木の保てないパイプではスロープの敷き金が足りない。横尾の歯ではロープが足りない。横尾の歯は軽い所なので1年はカラ身で通過させ、上級者がWボックで通過。中村の荷をFix前に下す。

1/3. Fix 隊 L: 飛田, 小久保 本隊 残り全部

Fix, 予備回収隊, 豊田, 中村

- ⊙ 9:40 T.S 登 (予備回収後出発)
- ⊙ 10:30 P4 付近 (Fix 上り 10m, 下り 30m)
- ⊙ 12:00 P3 付近 (Fix 下り 30m, トライプ 30m)
- ⊙ 14:00 30m 入り口 (Fix 隊と合流)
- ⊙ 15:30 横尾
- ⊙ 19:00 上高地

・ 下降路は30m入り口まで、P2の登りは少々平間となり石の下雪の状態が計測中
30m入り口より下の方が多い

- 1/4
- ⊙ 9:10 上高地駅
 - ⊙ 10:20 釜トン入口
 - ⊙ 12:30 沢渡

釜トンにライトがつかっていいほどと水がきれいだった。

No. _____
Date _____

各宿舎会計報告

・収入

合宿費	¥20,000 × 15	¥300,000
不参加部員	¥10,000 × 2	¥20,000
残備部員	¥5,000	
OBカニ	¥25,000	
計		¥350,000

・支出

Essen 費	¥176,863	(655 円/人)
装備 費	¥37,320	(2,488 円/人)
交通 費	¥96,640	(6,429 円/人)
栂見温泉 入浴料	¥4,000	
酒代	¥2,740	
打撃 費	¥30,900	
計	¥348,463	

・残高 ¥2,237

○ その他 OB 諸兄より ケーキ 4コ
 ロール 差入れ 名工 OB 奥藤さん
 残留部員より ケーキ 3コ、トリス

以上といただきました。

皆様 どうもありがとうございました。

1989. 1. 11
 会計担当 飛田

P.S 参考資料.

交通費内訳 (1人当り)

松本 — 高山 JR 青春18キップ ¥2,200

高山 — 中尾口
 (椋見温泉) 濃飛バス ¥1,700

沢渡 — 松本 中型タクシー
 1台平均 ¥9,485

この反省
 今回の反省もあつたので計画はよくできたと思
 う。レーヨンとミクソで作ったのは内容に变化が
 出てよかった。しかし米の量と第一回がなくて反省して
 いる。米一袋が一人分はなかなかよかったです。
 小久保

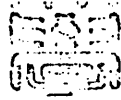
一年間のメインである冬合宿が無事に終わった。長期でもなく、むずかしいというわけでもないルーティンであり、しかも始終トレスが有ったのは寂しかった。この合宿で反省しなければいけないのは、いろいろあるが一番欠けていたのが地域研究であった。もし個人としてはある程度の研究とこの場主義が好きであるが、合宿である以上失敗は許されないものであるから、綿密な計画が必要である。昨年につづき天気が良く成功したのはよかったが、午後から天気が悪くなるような事はなくルートファインディングで思っていたよりも早くこたえ、冬合宿の問題点となるかもしれない。

豊田 浩太郎

冬合宿の反省

昨年と同様天候に恵まれたとはいい、冬合宿の成功はとてつもない。並し越えるまで本当に最後までいけりかどりの不安があったが、後半はサクサクとした感じがある。個人的にはカチンカチンの立場にありながら、他の4年生にオンブの格好で自ら積極性を発揮するの、えしかったと思う。また軽率な行動や、FIX工作での容易さがあり、事故に即結びつく可能性をいとも慎重に回避することができたと思ふ。深く反省している。全体約にみれば、行かぬかき精神のいかにビビるは元はなし、今年の冬山の状態が隊がどのくらい動くことかき玉の、各人冷静に判断し、今後の対策を考えて欲しい。1年生は初めての冬山、並しつらいとは思つたと思う。ぶつろつ玉。これからは君達の時代である。春までいらい今までの自分を更に磨きをかけてほしい。

(豊田)



Theme

個人の反省.

今回の合宿での反省すべき点は、上級生の判断ミスと、事前の研究不足であったと思う。1年生、2年生はまあまあトレーニングをしていたんではないかと感想をたいたが、ただ、冬山としては状況はもっと厳しいものがあるから、実力を過信しないで欲しい。今回は上級生が少なからず誤りであるが、これは今回に限らず将来の課題であると思うのでSACの爲にも考えていく必要があると思う。

(甲村貴士)

今回2年連続で合宿が成功して本当に良かったと思う。しかし、天候に恵まれ、又、残念なことに17もトレースのついた所を歩いたり、条件に助けられた部分も多かった。僕自身も、ついなとなくという感じが多々。モ、ヒモ、ヒ動けたのではなにかと反省している。一年生、2年生、はおつかれ様。これからもっとシビアな条件を考へて一クラス上つ山登りも見据えて下さい。あと「健康管理」はしっかりです。

内田健一

今回の山行で自分のフレッシャーに対する弱さみたいなものを再確認した感がある。横尾尾根にFIXを張るとき、時間をあげずに行動し、常に本隊に追いつかれるという恐れを背後に抱いていて、追いつまれるような気持で行動していた。しかも、スノーボードなど今まで習ったのみで、実際に支点として活用することなく、それを自分でセットすると不安も加わり、程んど精神が先に参っていたようだ。程んど悪い天気は予知ができたため、FIXの事だけが材料となっていたが、これが悪天だったとどうなっていたかわからないくらい動けなくなっていた。これからリーダー部員になるので、そうした種々のフレッシャーに耐得る精神力を身に付けていきたい。(三浦山)



Theme

No.

Date

まず冬合宿が無事に成功したニヒとうれしく思
えます。何ニヒも初めてのことと、フタヒはあ、たか、とヒヒ
新鮮でした。雪上技術の未熟さを思ひしらせまし
たか、収穫機会が少なかつたので自分ではしかたか
なかつたのかと思ひます。今後は、個人山行で収
得に努めたいと思ひます。そして今年も登山の幅を
広げたいと思ひます。

長谷川

今回の冬合宿は筈と槍のセーフが踏むことが
できうれしいものであった。しかしおらゆる面から
見て自分で登ったというより上級生に引き上げら
れたという感である。もっと自主的にならなく
ては、と思ひている。

中藤

今回の合宿は、二年か三人になつてしまひ、自分た
は、役割をはたすことができたか不安があつた。
まずか、エセンやFix隊など毎日大変ではあつたか
やうなことは、やったつもりであつた。天気にも恵まれ
気分的にも楽しめたのであつた。

ケーキはあんなにいいない

小久保

今回はほぼ入山と同時に体調を崩してはた。
そのため十分に働かなくて済んだ。気持の悪い
弱さがあつたのかしら。

(記 山田)

冬合宿の反省

私は、この冬合宿で、冬山というものを知り、笠ヶ岳と槍ヶ岳のピークを踏めたことは、とてもうれしかった。反省すべき点は、まず、一年生だからと、いたが、いたるところに見られたことだ。正確な現在位置の確認、自分なりの状況判断、雪庇・雪崩・滑落などの危険の回避、それらを、自分の頭で考えることがなかった。一年生だから、それでも許されてしまっただが、これから、二年生、リーダー部員になっていくには、これでは、いけないと思う。毎度のことながら、体力が、もう少しあれば、予裕ができて、色々なところに、もっと目を向けることができたのは、言うまでもないことだ。(兼、岩)

反省

今回の合宿にかぎったことではないが、自分から困難にぶつかっていくということが自分にはほとんどない。

フィックスはもっとすばやく確実に通過するようにしたい。

あまり関係ないかもしれないが、下山後どうしてもボクサーと無気力になってしまう、これはよくない。

記・小野 孝博

入山前にカセをひいたため、その影響が
出たのかもしれない。笠ヶ岳の最後の登りで
ついていけないようになってしまったのがやしい。
また、アイゼンを雨具やスパッツにひっか
けて破いてしまった。もっと注意しなければ
危険だと思う。
稜線では風が强かったが、冬山はきれい
で、快適だった。

記 植垣 健太郎

反省. 体力的にはトレーニングの成果がでていたのでもすまずだと思、たが、
もう少し予備がほしいと思、た。吹雪の日の雪とリなどつらい仕事もあ
たが、もっと積極的に仕事をこなさねばならぬ。

感想. 冬の北アルプスの頂上をふめてとても感動した。特に槍からはすばらしい
眺望が得られてきた。笠ヶ岳は思、たほどおもしろい。

河西 晋史

今回の合宿で僕は“タマシイのサケビ”
が2回ほど出た。1回目は笠ヶ岳の
頂上直下を、2回目は木倉1層への直登
のときである。

“タマシイのサケビ”は自分の意志とは無関係
に出る“カア”とか“ウオウ”とかいう、これは
神からの声のことである。類似の品として
“タマシイのタメキ”というのがある。これは
エッセン中4ンテン中によく出るもので“カア”
とか“フウ”とかいうものである。これ
も神からの声であるというこはいう
までもない。

おれたちは神に近ずいたのだ“あ!!”

記 小野 孝博

② 装備について

1. 工具

今日持っていたものは

ロープ 200m (φ40×2, 8φ40×2, 7φ10×4)

ピット = 18本 (パイプ×5, ロック×13), ポルト×5

ITビット×20, ミニリフト×50, シンキング×1

スター (AI×5, IT×3), テッド2×1, バイル×4

でしたが、クワの類も並でロープも精進を根で

ロープとスター類が不足しました。

2. 消費量

ガス 17.5L / 42L (106cc / 日)

メタ 9箱 / 27箱 (16本 / 日)

クワ 6本 / 18本 (0.51本 / 日)

3. 土下にはまだかなりの量のガスが土中に残っています。

・ガスは5つのうち3つまでが給油口付近から

と出てきましたが、シンキングのバッキンに

は油が溜まることで改善するかもしれませんが。

・雪は被植しやすいため、多量に持っていったほうがよいでしょう。

(牧野)



個人のお話

先の事を考へながら行動する、という
事で力不足を感じた。(牧野)

まじりくは頭の上で金色に
銀色に輝くのはほろかにつく穂線くで
それにして今日もまた空はとほほでも青く
うらやかに

行こう楽しくトレース治い

ハイマツを踏み

トノボは赤く血に染まり

もう僕は有頂天

手は空を握る

たって君たち雷鳥一族

この笑しげな赤き方は

私の心を暗くする

歌を忘れたカササギは

道に迷ったレカ-のように
ほくの心はぐるぐる回る。

先にひかれて?

行こう楽しくトレース治いに
(ラニボ- 牧野)

冬合宿の作文

No.

.....

最近気になること

加藤

最近気になることがある。そのことに最初に気が付いたのは冬合宿から帰った日であった。

その夜は久しぶりのふとんで気持ちよく寝ていると、ブルブルというエンジン音が聞こえた。それで目が覚めると次にからがらという音がした。どうやらアパートの中に侵入してきたらしい。僕の部屋の前で足音が止まった。「カタッ」という音がした。ドアのほうに目を向けると郵便受けに新聞がさしこまれていた。彼は新聞配達の人であったのだ。時計を見ると3時半であった。その後深夜にその音で目が覚めることがあった。

普通新聞というものは5時ぐらいに配り始めて7時ごろに終わるはずである。二人にはやくに配るのはどのような理由があるのだろうか。また配達人は配達の前には寝るのであろうか、それとも配達の後で寝るのであろうか。いずれにしても非常に不規則な生活をしているはずである。

よいでキいいことだが最近気になることである。



お正月.

お正月が好きた。とても好きた。おいしいものが食べ
 られまし、お酒を飲めるし、TVもお面白いし、お年玉は
 もらえなくて少しくあいのお金はもらえるし、暗着のお姉
 ちゃんがかわいいし.....。初詣でそ
 行きたいしは.....

.....。でもこの冬は.....

.....、この冬は.....

.....。元日は櫓の肩にいたんだよね.....

.....。ラントの入口が半分開い
 てて気がついたと僕なんかラントの壁に埋まっていた
 よね.....

.....。下界の正月のことは全然覚えておらず、
 ちがって.....

.....。お正月が好きた。とても好きた。

長谷川 聡貞

合宿会計報告

支出	交通費(電車)	39,220
	(タクシー)	19,220
	酒	10,090
	Essen費	74,214
	装備費	19,355
	合計	162,099
収入	20 × 10,000	200,000
残高		37,901

合宿費1人当り 8,105円也

・~~装備~~ ガス 92cc 1人・日
 火タ 20本 / 日
 3ヶ所 17cm / 晩・1ヶ所

・アルモは6mmφ 2は細すぎる。
 ・下入が2回火をへんたところから出したが、
 合宿までにたおします。(牧野)

Essenの反省
 計画の時点でおくれをしまい、計画として十分なものでは
 なかったが、乾燥野菜の味がよかつたのにすくわれて、
 味のおぼけ、こうよかつた。ふりかけなびを持って行、たか
 味つけが十分なものには使わないう方がよいと思った。
 また、日程が短くなるため、11311と試すことができ
 なかったのが反にかかす。サネ米は味が薄いと食へにく
 のでしっかりと味付けをするように心がけた。それと、ラーメンなど
 11311にかさばるものは代用品を考へる。

今回初めて合宿のリーダーをやることになったが、なかなか思うようにならず、リーダーの難かしさを新たに感じました。合宿全体が締まらなかったのも、やはりリーダーの自分が締まっていなかったからだと思います。

断判を下すのが遅く、三野さんや、四年生に言われる場合が多かったと思います。

一年生は、今までの合宿を思い出して、また今回の合宿で行なったことをしっかりと頭に入れて、各合宿につないでください。

二年生は、とにかくもっと元気を出すこと。一年生を見る余裕を持つこと。冬合宿ではしっかりと頑張ってください。

全体的にもっと負を引き締らないと、冬合宿は成功しないと思います。

今回の合宿においてもっとも問題であった点は、緊張感の欠けていたことではないかと思う。上級生、下級生それぞれが自分のなすべきことをきちんとしてであろうか、無論しっかりとやることをやった人もいるとはおもうが、おれは合宿のあとの充実感があまりなかった。プレ冬をなめていたような気がする。幸い事故は起きなかったが、合宿は常に1年生、初心者がいるという認識をもたなければ危険なものになってしまう。時には精神的に後位に立たねばならないが決してなめてはならないという基本を忘れてしまったようだ。

それにしても、山スキー大作戦はつぼったとしかいえまへんな。(中村)

矢張りおれ絶向のコンディションの割には、たいした成果を上げられなく、いままでの内容だった。全体の雰囲気はドンドン感じが悪く、グライタのせいだった。指導も、ちと口うるさく、冬山の厳しさを、教える意味でもやるべきだった。こし細心の注意を払って反省して、モリがなが、冬山に向け、全体の気持ちをもっと引き締めよう。ちと努力する必要性を感じた合宿だった。

(飛田)

今回はクラブや上級生のむずかしさを痛感しました。
もっともっと上級生のトレーニングや合宿の準備について考
えて行動すべきであらうと思ひます。また、もっと自分自身にきび
しくして自信をもつクラブを引は、211のリーダー部員になり
たいと思ひます。一年生二年生はまだまだトレーニングや自
覚が必要だと思ひます。自らが登りたいからせうはあつた
ることをやるんだという気持で合宿や個人山行にのぞめ
ばもっと楽しい山行ができるでしょう。 内田健一

今回の合宿は、アैसेもほげないし、フックもなく、
ただラッセルをやりに行ただけみたいになって、気分も
盛り上がった。今一集中力に付けてしまひ、周り
への気くばりに付けてしまひ、あまり満足できな
かった。

小久保、

今回のプロ冬では冬もいっぱいあって
楽しかった。しかしラッセルは余り上手にでき
ず、そしてまたシビアな場面でし、かつ1年生
の面影をみてやれなかったような気がする

ハットリ

今年より去年よりも雪が多くなりラッセルが大変だった。
2年生はいまいち元気がなくてパーティーの中心
的な役割を果たせなかった。あと、1年生への気く
ばりが足りなかった。冬合宿ではもう少しかん
ばっていきたいと思ひました。

松下、

個人の反省.

夏に続き2年生らしくない合宿をしてしまったと思う。パーティー全体を引っぱっていくことも、1年生の面倒をみることもイマイチで合宿全体に気を与えることができていなかったことを情けなく思う。毎回同じ反省をくり返すのもそろそろやめにして冬合宿にのみみたい。

(浦山)

加藤

毎度のことであるが今回も体力不足を感じた。トレーニングにしたつもりであったが、足りなかったようだ。設営やエッセンの動作もおろそかだ。今回は天候がよかったのでまたよかったが、悪天候のときはこらはいくまい、やはりもっと集中しなくてははいけない。

植垣 健太郎

初めてこの冬山であったが、セミだけでは原からないことで覚えなければならぬことがたくさんあった。

ワカンでのトップやツバイの仕事をするときの腕力、体中のなさを痛感した。

自分のワカンを自分で踏んでしまうことがあり、もって身をひきしめて歩かねばならないと痛感した。また、登山記録をもっとくわしく書かねばならないと思った。

感想.

天候に恵まれて思ったより寒くなかった。

只ワカン歩行は非常に疲れた。

冬合宿ではも、と元気を失ってしまいたい。

山田

反省と感想

冬合宿のことはかり気になってしまい、プレ冬合宿を軽く考えていたのがいちばんいけないかった。

エッセン中にしる行動中にしる、山の中にいる時は自分から進んでものごとを進めなければなんにもならないと思った。

個装を細部までチェックしておく心要があった。

(小野丹)

プレ冬に向け前々からトレーニングを重ねたのだが、2日目に遅れてしまい、成果が全然でずにおわってしまった。冬合宿にむけて今以上にトレーニングをつみたいと思う。生活条件も夏とは全く違ひ、ぬれたものはすぐ氷りついてしまうので装備の管理はしっかりしたい。今日の合宿はまたまたピークにたてずに残念だったが、早く雪になれば危険を回避できる能力を養え、冬山を楽しむようになりたいと思う
(河西)

合宿での2年生の役目というものをあまり考えずに合宿にいったため、粗大ゴミと化してしまった。冬合宿にはもっと自覚も持っていたらよかった。来年はもっと練習できるの君と遊んだのがとても楽しかった。
(牧野賢一)

ワカフをはいったとき、歩きが不安定になってしまい、
自分でも、冷やりとするときがあり、ワカフをしっかりと
結ぶことから、確実にし、冬合宿では、上手く歩きたい。
テントの設営・撤収では、先輩に指示されてから、動いて
いたことがあったので、自分で、先を読んで、テキパキと行動
する必要がある。冬合宿では、今までの経験、反省をいか
して、精一杯自分の力をぶつけた。 (兼岩)

反省

今回の合宿では体調をくずしかけてしまい、多少の合宿
になりました。次回の冬合宿は期間が長いので、よりい
ろや体調に気をつけ、常にある程度の緊張を持続させたい。

(記 兼岩)

反省

全く力不足と感じました。テントの設営時等、自分から次々
と仕事を覚えていくおりに助けをいけなかった。
又基本的なこと、エッセンや返事なども、としかり助けをいけ
なかった。

山田

冬

加藤 正幸

今年も冬がやってきました。冬は寒い。「私は冬が嫌いだ」と、冬になるといつも思う。自転車に乗っていて手がしびれてしまう。このような冬にあて、楽しみはこたつで暖まることである。寒い夜にこたつに入っているとポカポカしてとても気持ちがいい。このあいた「キムネ」強しようと思いきつに入っているうちに、知らない間に寝てしまい目がさめると夜中の2時48分であった。はやく春が来てほしい。そして上田で春を訪えたい。

「ゆきのうえでの歩きかた」 (河) - sai

ワカン: 今回初めて使用したが、ヤセ尾根ではスリルを倍増してくれる道具となっていました。またいくらキツくしぼっても、すぐに斜めになてしまいます。これにより、いつもはわからない足のうらへの体重のかけ方がわかりました。今度からはフラットにおきます。また体重が重いと前の人以上にもぐってしまったり、FIX通過のとき雪がくずれ岩と雪のスキマにおちこたります。このことから雪のうえで歩くときは体重が軽い方がBetterだということも体験した合宿でした。

つぼってますネ。

TAKASHI

そう、事の起りは合宿前夜におまわりをひきそうになった事に始まる。しかし、そのときはいつもの山岳会会員の犯しやすい過ちくらいにかんがえていた。だが、翌日ねむい目をこすりながらスキーをはいて歩きだすとどうやら雲行きがあやしくなってきた。私の古いスキーは湿った雪をべったりとつけて、まるっきりのゲタになってしまい、すぐさま額から汗がふきだした。それだけならまだしも、ネジがゆるんでしまいはいていることも無理となった。私はスキーを抱えて小走りにパーティーに追いつくため、ハーハーと息をきらすハメになった。

それでも雪が深くなればスキーのほうが有利であった。だが、(「またしても」だが) なさけないK君をおくりにいった時、下から除雪車がウンウンと登ってくるではないか。帰りのラクちん滑降ははかなく消え去ったのである。内田が、「タカシさん、つぼってますネ。」

翌日の猿倉台地はスキーですいすいだったが小日向への登りで再び愛しいスキーは、無用の長物になってしまった。小日向のコルでスキーをデボしていると、内田が、「タカシさん、つぼってますネ。」

そして、下山の日に猿倉台地でころびまくっていると(私の名誉のために付け加えるが、あれは誰が滑っても転んだと思うが。)内田が、「タカシさん、つぼってますネ。」

かくして、わたしは自ら山スキーの灯を消してしまったようであった。

「ウン、つぼってるナ。」

爺ヶ岳 東尾根 ~ 鹿島槍

Memor. 三野 野口 一 赤岩尾根
(部外看) (部外看)

1/30. 9:00. 鹿島部益 狩野氏宅 出発. 快晴.

10:15. 10:40. 爺ヶ岳 (午前) の 2000m. 晴 風が強い.

- 東尾根の登り口は、狩野氏宅の裏手E. 回り込む。
- 三野氏宅には、沢の積雪が残り、雪崩の場所を避ける必要あり。
- 他は、一歩一歩多く、トレースは、バツリで、おのれは、山行の一度も、使用しなかった。

12/31. 9:55 出発 快晴

9:35. 爺ヶ岳 南峰を 起る下り.

10:40. 冷池山荘.

12:50. 鹿島槍 南峰. 晴. 風が強い

2:00. 冷池山荘 T.S. 晴がよくなり

○ 冬期小屋は、使用可能.

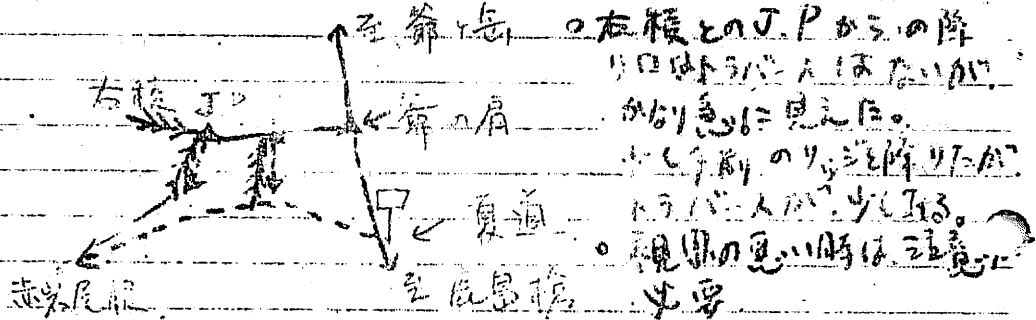
1989.

1/1 己日 10:50. T.S. 出発. 快晴. 風が強い.

1:55. 高千穂平 T.S. 快晴. 風が強い.

○ 赤岩尾根は、山口が かなり急で、一年ほど 凍れれば、^{○○○○}には、H.T. の 歩行は、早く、凍結が、降雪後は、雪崩の危険あり。

・高十穂半では、風が非常に強く、「水が」二つ折れかと思っただけだった。



1/2. 9:00 出発

快晴

12:00. 狩野氏宅.

今回のルネは、数年前のツル又コ一人だが、雪の降る
には、おもしろい合点にはなっている。極端に心算がしい
が折はよく、ルネにはなると思ふ。
良い

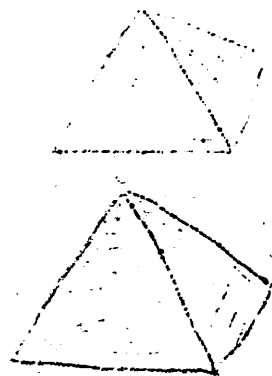
編集後記

冬合宿が終、それからもう1ヶ月が過ぎてしましました。

今年1年なんとか無事に終わりました。

来年もよろしくお願ひします。

小野孝博




フ^oL冬・冬山報告書

平成元年 2月9日

発行 松本

信大 山岳会


SAC

®